

# 令和 9 年度から臨床研修を開始する 研修医の募集定員(案)について

和歌山県福祉保健部福祉保健政策局医務課

# 国における募集定員設定に係るこれまでの動き

## 平成16年度～

- 研修医の募集定員が研修希望者の1.3倍を超える規模まで拡大し、研修医が都市部に集中する傾向が続いた。

## 平成22年度

- 研修医の地域的な適正配置を誘導する観点から、都道府県別の募集定員上限を設けるなどして見直しを行った。

## 平成27年度

- 更なる研修医の地域的な適正配置を誘導する観点から、募集定員上限の計算式を一部見直し。
- 全国の研修医総数や研修希望者数を推計することで、医学部入学定員増を織り込んだ制度設計とし、さらに、人口当たりの医師数や高齢化率に応じて加算することとした。
- 研修医の募集定員が研修希望者の1.22倍まで縮小。今後、令和2年度には約1.1倍、令和7年度には約1.05倍まで縮小させる方針に。

医師法第16条の2第1項に規定する臨床研修に関する省令の一部改正（H31.3.26公布、R2.4.1施行）  
⇒ 募集定員の設定権限が国から都道府県へ移譲。

## 令和3年度


- 医学部入学定員を用いている都道府県の一部では、人口に比べて著しく多い定員数となっていることから、医学部入学定員を用いる場合、人口を用いた場合の1.2倍を限度とすることに。
- 修学資金の貸与を受ける地域枠分の定員を別枠扱いとして加算対象に。  
→ 地域医療枠、近大医学部和歌山県地域枠が加算対象に。

## 令和4年度

- 修学資金貸与の有無に関わらず、国の示した地域枠の定義を満たす者の定員を別枠扱いとして加算対象に。→ 県民医療枠が加算対象に。

# 国における募集定員設定に係るこれまでの動き（続き）

## 令和9年度～



- 令和9年度については、これまでの計算式を踏襲しつつ、調整しきれない部分については一部修正を行った。
  - ①各都道府県の加算等により、全体の募集定員上限数を超過することから、**超過部分については各都道府県の基本となる数で按分**することに。
  - ②各都道府県の募集定員上限率が前年度減少幅▲1%よりも大きい場合は、**▲1%まで戻す**ことに。
  - ③離島に関する加算について、離島数を考慮することに。

# 国が示す令和9年度募集定員上限数

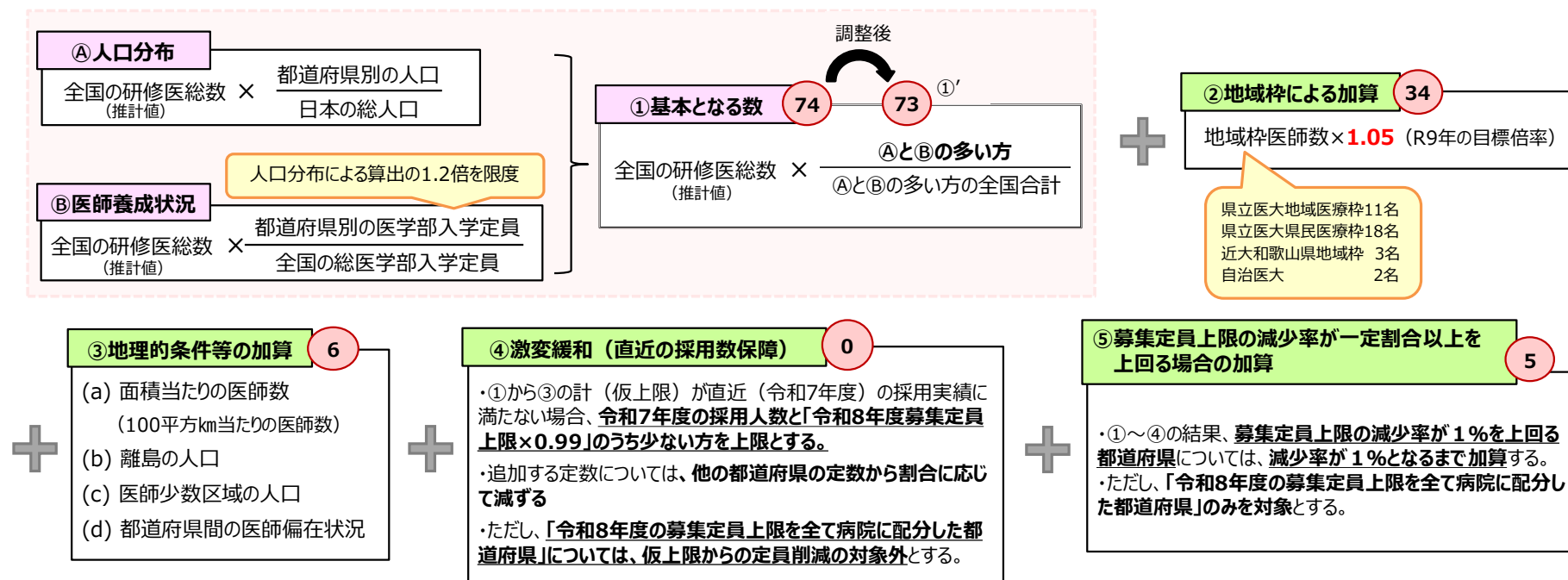
## ➤ 全国の募集定員上限（10,895名）

研修希望者数（10,376名）× **1.05** <sup>(※1)</sup>

※1 R7年度までに段階的に1.05倍まで縮小されてきた。  
R9年度も1.05倍で据え置き。

## ➤ 各都道府県の募集定員上限（本県：118名）

○：本県への配分・加算数



- 全都道府県の「①～③の計（仮上限）」の合計が募集定員上限（10,895名）を上回るため、各都道府県の①「基本となる数」に応じて按分し調整 ⇒ 本県は「114（①～③）」から「113（①'～③）」に。
- 令和8年度の募集定員上限を全て病院に配分した都道府県（→本県該当）については、
  - ・「④激変緩和」による「①'～③の計（仮上限）」からの定員削減の対象外に。
  - ・「⑤募集定員上限の減少率が一定割合以上を上回る場合（→本県該当）の加算」の対象に。

※ ①(①')～④については、全国の募集定員上限の範囲内で配分。

※ ⑤については、全国の募集定員上限の範囲外で加算。

# 令和9年度本県募集定員配分（案）

R9年度から臨床研修を開始する研修医の本県募集定員数は**118名**となり、**昨年度より▲1名**となる。(R8:119名)

【国が示す本県の募集定員上限数】

**118**

**118の内訳** → ①基本となる数（人口又は医学部入学定員に応じた配分）  
 ②地域枠による加算  
 ③地理的条件等による加算  
 ④激変緩和（前年度の採用数を保証するための調整）  
 ⑤1%戻しによる追加配分

74  
34  
6  
0  
5 } ※按分して「113」になる

本県におけるR9年度募集定員算定方法は、R8年度から**変更なし**

基幹型臨床研修病院	R7		R8		R9 希望定員
	募集定員	研修医 受入実績	募集定員	研修医 受入実績 (※R8.1.1時点)	
和歌山県立医科大学附属病院	74	67	72	61	72
〃（小児科）	2	0	2	0	2
〃（産科）	2	0	2	0	2
日本赤十字社和歌山医療センター	16	16	16	16	16
和歌山労災病院	10	9	10	9	8~10
和歌山生協病院	3	3	2	1	3
橋本市民病院	4	4	4	4	4
ひだか病院	2	1	2	2	2
南和歌山医療センター	2	2	2	2	2
紀南病院	6	6	5	3	5
新宮市立医療センター	2	0	2	0	2
計	123	108	119	98	118~120

※各病院の希望定員の範囲内で配分

1. 県全体の採用者数（過去4年間の研修医受入実績及びR8.1.1現在の受入見込による5年平均値に基づく）を考慮
2. 国のルールに基づき、①募集定員が20名以上の病院には小児科・産科プログラム（各2名以上）を配分するとともに、②各病院の定員数が2以上となるように設定  
★→ ①医大4、②ひだか1、南和1、新宮2
3. 臨床研修修了後の地域枠を除いた県内残留率（過去5年平均値）が70%以上の病院には1加算 → 対象病院なし
4. 地域枠を除いた県内残留率が30%以下の病院から1減算  
→ 生協、南和、紀南、新宮がそれぞれ▲1
5. 上記1～4の結果、定員配分数が1以下となった病院は、募集定員を2にするため加算 ★→ 生協、南和、新宮にそれぞれ1
6. 残余については、希望定員の範囲内で各病院の病床数割合（R7.4現在）及び各病院のR8募集定員割合により配分  
→ 医大8、日赤1、紀南1

★（2・5）は国のルールに基づく配分

R9 募集定員 (案)	前年度 募集定員 との差
72	0
2	0
2	0
16	0
9	▲1
2	0
4	0
2	0
2	0
5	0
2	0
118	▲1

# 基礎研究医プログラムの募集定員について

## 令和7年度第4回医師臨床研修部会（R8.2.19開催）資料より

○各都道府県知事から、令和9年度基礎研究医プログラムについて計34大学（22都府県）から届出があった旨の情報提供があった。

（参考）届出のあった希望定員の数

合計60名（5名：3大学、3名：3大学、2名：8大学、1名：20大学）

○これを踏まえ、国として、「医師法第16条の2第1項に規定する臨床研修に関する省令の施行について」（平成15年6月12日付厚生労働省医政局長通知）に規定する以下の①②の方法に基づき、**定員（計40名）を配分**する。

① **各大学病院に1名ずつ定員を設定**する

② 残りの定員を科研費等（基礎医学分野の科学研究費助成事業と国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）対象事業をいう。）の金額が多い順に1名ずつ設定する

### 本県における状況

和歌山県立医科大学附属病院から届出あり（希望定員数：**1名**）  
→国へ情報提供

### 国が示した本県の募集定員案

和歌山県立医科大学附属病院 **1名**（上記定員配分方法に基づき、希望定員数の範囲で配分）